

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

1. スタッフ

科長（兼）教授 猪原 秀典

その他、准教授 1 名、講師 1 名、助教 9 名、医員 24 名、技術職員 3 名、病棟事務補佐員 1 名、（兼任を含む。）

2. 診療内容

当科は平成 22 年 4 月 1 日より耳鼻咽喉科・頭頸部外科と改称し、頭頸部腫瘍、中耳炎、難聴、めまい、アレルギー性鼻炎、鼻・副鼻腔疾患といった病気の診断、治療に当たっている。

当科で扱う病気と治療の種類

- ・頭頸部腫瘍手術、集学的治療
- ・人工内耳埋込手術
- ・聴力改善手術、人工中耳、めまい手術
- ・鼻・副鼻腔手術、レーザー治療、ナビゲーション手術

☆頭頸部腫瘍
☆中耳炎
☆難聴・めまい
☆アレルギー性鼻炎
☆鼻・副鼻腔疾患
☆鼻出血、異物
☆発声障害

頭頸部腫瘍外来では、喉頭癌、咽頭癌、口腔癌、鼻・副鼻腔癌、唾液腺癌、甲状腺癌など年間約 250 例の悪性腫瘍を中心に治療に当たっている。頭頸部癌の治療では嚥下、発声などの機能を可能な限り温存するだけでなく、整容面での配慮も求められる。そこで、手術だけでなく放射線、抗癌剤を導入した集学的治療を行い、喉頭をはじめとする臓器の温存、そして治療率の向上を図っている。特に抗癌剤治療と放射線治療を同時に行う化学放射線同時併用療法を積極的に施行し、可能な限り喉頭全摘を回避して喉頭温存に努めている。そのため症例数の割に手術件数は低く抑えられているのが特徴である。

難聴外来では中耳炎に対して年間 200 例余の手術治療を行っている。メニエール病をはじめとするめまい疾患の研究、治療にも長い伝統があり、めまい外来を設けて難治性の患者の診断・治療に当たっている。

鼻・副鼻腔外来では、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、嗅覚障害などの疾患を中心に診療を行っている。国民病ともいわれるアレルギー性鼻炎の治療では、薬物療法、減感作療法の他に、レーザー手術、後鼻神経切断術などの外科的治療に内視鏡を用いて行っている。鼻・副鼻腔領域の先端的医療として、ナビゲーションシステムを用いた鼻・副鼻腔手術（車で運転に使われているナビゲータと同じ原理を使った手術法）があり、重症患者に対し、安全でかつ短時間で行える新しい手術方法を開発している。

この他にも、救急疾患としては、鼻出血、食道・気道の異物、突発性難聴などがあり、緊急入院のうえ治療に当たっている。また、顔面神経麻痺、音声障害も当科の守備範囲になっており、一般病院では治療の難しい難治性の病気を取り扱っている。

3. 診療体制

(1) 外来診療スケジュール

外来診療体制は一般外来 3 診に加え、種々の専門外来により構成されている。初診患者は基本的に紹介患者のみになっている。通常は一般外来で診察し必要に応じて各専門外来へ廻されるが、専門外来宛ての紹介状がある場合は初診時より各専門外来で診察している。聴力検査は毎日行っているが、特殊検査は予約制となっている（下記 2）の外来特殊検査を参照）。人工内耳埋込患者のリハビリも毎日行っている。

1) 各曜日の専門外来は以下のとおりである。

月曜日	腫瘍、難聴、鼻アレルギー、嗅覚、音声治療
火曜日	腫瘍、難聴、めまい、幼児難聴、補聴器、音声・嚥下・気道
水曜日	腫瘍、難聴、めまい
木曜日	腫瘍、難聴、めまい、遺伝難聴
金曜日	腫瘍、難聴、めまい、鼻・副鼻腔、顔面神経

専門外来の鼻アレルギー、嗅覚、音声治療、幼児難聴、補聴器、遺伝難聴、顔面神経は午後診であるが、他の全ての外来は午前診である。

2) 外来特殊検査の実施日は以下のとおりである。

月曜日	電気眼振検査、味覚・嗅覚検査
火曜日	ABR、頸部エコー
水曜日	VEMP、グリセロールテスト
木曜日	電気眼振検査、蝸電図
金曜日	ENoG

(2) 病棟診療体制

当科は東 13 階病棟に入院ベッドを 51 床持っている。10 年以上の臨床経験をもつ医師が 11 名おり、腫瘍、耳（難聴、めまい）、鼻・副鼻腔、音声・嚥下に分かれて診療に当たっている。あるグループの患者を専攻医が受け持つ際には、そのグループ所属の指導医が指導する。入院患者の手術は月曜日から金曜日まで毎日あるが、全ての症例の検討が、毎週月曜日と水曜日に行われている。

4. 診療実績

(1) 外来診療実績

平成 29 年度の延べ受診患者数は 27,494 名であり、公表されている大学病院・耳鼻咽喉科の中でトップの実績を誇る。

難聴を訴える患者には当日に聴力検査を実施しており、年間約 2,700 例の実績がある。めまいを訴える患者には平衡機能検査を行い、年間実施例は約 600 例で

ある。

(2) 入院診療実績

手術を目的とした入院と頭頸部腫瘍に対しての化学放射線同時併用療法を行う症例が大多数を占め、平均在院日数は、17.4 日となっている。

平成 29 年度の手術患者総数は 670 例、730 件であり、手術の内訳は以下のとおりである。

手術を目的としない入院も少数例あり、突発性難聴、めまい、顔面神経麻痺、その他の救急疾患が該当する。

手術 頭頸部	悪性腫瘍手術	188
	良性腫瘍手術	99
	計	287
耳科手術	鼓室形成術	127
	アブミ骨手術	8
	内リンパ嚢開放術	4
	人工内耳埋め込み術	37
	鼓膜切開・チューブ挿入術	21
	顔面神経減圧術	6
	その他	13
	計	216
鼻科手術	内視鏡下鼻内開放術	83
	鼻中隔矯正術	31
	後鼻神経切断術	5
	その他	19
	計	138
口腔・咽頭・喉頭手術	口腔・咽頭・喉頭手術	42
	声帯ポリープ切除術	12
	喉頭形成術	5
	その他	30
	計	89
総計		730

5. その他

本院を含め、日本耳鼻咽喉科学会認定の研修指導施設が 21 病院あり、専門医の育成に当たっている。

当科領域の先進医療としては、人工内耳や骨導補聴器の埋込手術がある。生まれつき聞こえない子どもや中途失聴者に対し、内耳の機能を代用する人工臓器を埋め込みリハビリを行っている。特に、幼少児の手術では実績があり、西日本各地から患者が治療に訪れる。

(1) 倫理委員会への臨床研究申請状況

- 1) 頭頸部癌の治療抵抗性に関連する分子の網羅的解析
(承認番号 12281)
- 2) 中咽頭癌においてヒトパピローマウイルス感染および p53 遺伝子変異の有無と関連する因子の解析
(承認番号 12282)
- 3) 切除可能なヒトパピローマウイルス陽性原発不明癌頸部リンパ節転移に対する放射線単独療法による低侵襲治療 多施設共同第Ⅱ相臨床試験 (承認番号 11006)
- 4) 切除可能なヒトパピローマウイルス陽性中咽頭癌に対する放射線単独療法による低侵襲治療 多施設共同第Ⅱ相臨床試験 (承認番号 10352)
- 5) 高齢者もしくは軽度腎機能障害者の頭頸部癌に対する抗癌剤 (ドセタキセル+シスプラチン) を用いた化学放射線同時併用療法の実施可能性試験-多施設共同試験- (承認番号 12010)
- 6) 内耳造影 MRI 検査による内リンパ水腫疾患の治療効果判定 (承認番号 11341)
- 7) 術後副甲状腺機能低下症に対するファレカルシトリオールの有用性の検討 (承認番号 12256)
- 8) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学領域における疾患に関する臨床研究のバンキング (承認番号 12391)
- 9) 慢性中耳炎における中耳の状態と聴力の関連について (観察研究) (承認番号 12459)
- 10) 良性発作性頭位めまい症に対する疲労現象検査時の頭位変換とエプリー法の治療効果の非盲検ランダム化比較試験 (承認番号 14128)
- 11) アレルギー疾患を合併する慢性副鼻腔炎に対するモンテルカスト投与の嗅覚障害に対する検討 (承認番号 09176)

その他 9 件の臨床研究が進行中

(2) 学会による施設認定状況

日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本気管食道科学会認定専門医研修施設
頭頸部がん学会認定研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本内分泌・甲状腺外科学会専門医研修施設

(3) 専門医

日本耳鼻咽喉科学会認定専門医	23 名
頭頸部がん専門医	2 名
頭頸部がん専門医制度暫定指導医	1 名
日本がん治療認定医	1 名
日本内分泌・甲状腺外科専門医	1 名
日本めまい平衡医学会専門会員	1 名
日本気管食道科学会認定専門医	1 名
補聴器適合判定医	1 名
補聴器相談医	7 名
臨床遺伝専門医	1 名